

# とかす力（八木重吉の詩を愛好する会会報）

事務局（連絡先）〒277-0014 千葉県柏市東 3-8-34 柏第一宣教バプテスト教会

\*\*\*\*\*天利武人（教会牧師）電話 04-7164-9159

（会報編集、ホームページの連絡先）〒270-1406 千葉県白井市中 205 小林正継

\*\*\*\*\* Eメール [kmat27aiko@gmail.com](mailto:kmat27aiko@gmail.com) 携帯電話 09061674553

☆ 第 9 号 ☆

2014 年（平成 26 年）

7 月 1 日 発行

## ★ホームページの開設の案内

八木重吉の詩を愛好する会のホームページを開設しました。八木重吉の案内と、愛好会の案内と、大きく左右に分けて知識情報を発信（提供）し、また連絡欄を通して全国の愛好者から情報を集めて行きたいと思っています。まだ完全な内容のページというわけではなく修正していく箇所がありますが、すでにインターネットにアップされています。皆さんからの情報も加えて、正しい内容に更新していき、八木重吉を愛し、学習し、情報が欲しい方々に提供して行くつもりです。

ホームページのアドレスと、管理者への問い合わせや情報提供のための E メールアドレスは以下です。

ホームページアドレス <http://www.yagijuaiko.com/>

E メールアドレス [kmat27aiko@gmail.com](mailto:kmat27aiko@gmail.com)

## ★柏のゆかりの地見学（小雨決行、大雨の場合は詩の鑑賞会）と情報交換会の案内

柏の重吉ゆかりの地の見学会を実施します。（暑さを考え、無理のない移動にします）

日時：8月2日（土）午後1：00—4：00（1：00—2：30 散歩 2：30—4：00 情報交換会）

集合：柏駅西口（改札を出て駅構内から西口に出る付近に集合、『柏時代の詩人八木重吉』の冊子が目印）

内容：詩碑「原っぱ」、東葛飾高校、旧居付近等を見学し、その後事務局の第一宣教バプテスト教会でお茶を飲みながら語り合う時を持ちます。（雨天時はここで詩の鑑賞会の予定です）

詩の鑑賞会の場合は、詩碑になっている詩を鑑賞しますので、『柏時代の詩人八木重吉』の冊子を持参してください。冊子をお持ちでない方は、当日無料配布します。また、ホームページの案内を見て初めて参加される方がいれば、当日は語り合いの中でいろいろ情報交換したいと思っています。



〈昭和 60 年建立の詩碑「原っぱ」〉

## ★あなたの「八木重吉との出会いとその詩の魅力」原稿募集

ファンの皆さんと重吉との出会いについて、会報の前号で案内しましたが、まだ少数です。ぜひ皆さんの愛する重吉に対する思いを書いてください。現在のファンの思いを後世に残すという目標で冊子作成を目指していますので、奮って原稿をお寄せください。

題：「八木重吉との出会いとその詩の魅力」

字数：2000字程度（原稿用紙5枚、パソコンのワード歓迎）

締切：2014（平成26）年12月末日

送り先：上記、会報編集係りの小林まで、メール（[kmat27aiko@gmail.com](mailto:kmat27aiko@gmail.com)へ）か郵送で

## ★昨年の活動報告

### (1) 2013年の茶の花忌参加報告

平成25(2013)年の茶の花忌の報告をします。当主の八木藤雄さんが入院されていたため、例年のような準備はできないことから、墓前祭のみ行うという方針で準備されました。さらに台風の接近により、娘さん(長女佐藤さん)が一時は中止にすることも考えたそうですが、少しの雨ならば、集いたいという愛好者のことを考慮して、実施されることになりました。時間は午前10時ということで、午前中で終了しました。私はたとえ少数でも行くことにしていましたが、橋本駅で佐藤、池田さんと合流し、小雨の中でも、タクシーで川尻小学校の詩碑「飯」、大戸小学校協の「願ひ」、相原幼稚園の「ふるさとの川」を見学しながら、生家に着きました。そして集う時間が雨中にはなりましたが、突風は無く、終了する頃には止んできて、記念館の見学も支障なくできました。

二十人近くの訪問者に、近所親族の方々を合わせて40人くらいで、例年の半数くらいにはなりませんが、特別な状況の中でもこれだけの集いが出来たことは、やはり八木重吉の魅力ではないかと思います。茅ヶ崎から太田きよ子さんが集っていて、挨拶を交わしました。

墓前祭の司式は、例年の小林牧師の予定でしたが、都合が悪くなったようで、同じ桜美林教会の井上大衛牧師が司式をさました。重吉の愛唱歌である讚美歌322番を賛美し、共同の祈りを墓前で行い、奨励は、生家の庭の方で行いました。重吉の詩はおいしい食材でありながら料理されていないという言い方をされていました。推敲されていない深みの無い詩という意味なら違うと思ったのですが、ごてごて飾り付けられていないがおいしい味がするという意味にも取れるので、おそらくその意味なのだと思います。そして生きていることの不可解さ、つまり与えられた命を、神のもとに返すまでどのように生き抜いていくか、人間にとって最も本質的なこのひとすじの求道の道を歩み、その求道の思いが言葉として表現されたのが八木重吉の詩だと語られました。そして重吉は信仰によって与えられた聖霊によって希望を見出していたとも言いました。



〈きれいに塗装された記念館〉



〈25年10月26日の愛好会の集まり〉

その後、準備して下さっていた近所の方が、記念館の屋根が新しく改装したことを教えて下さり、また記念館の入口の「八木重吉記念館」という案内板の字は加藤武雄さんの弟の加藤哲雄さんが書いてくださったと言われ、そのご子息である加藤正雄(城山氏の教育長を務められた)さんが、哲雄さんの思い出や、哲雄さんが重吉から「お前は俺の親戚なんだ」と言われたことも語ってくださいました。さらにその後、町田市の市民文学館の館長横須賀秀雄さんとそこに勤務する学芸員の神林由貴子さんが文学館の活動と重吉の展示もしていることを語られました。今回はとくに事前に指名してスピーチをお願いすることも考えていなかったのか、その場の雰囲気ですピーチをおねがいして、私にも一言と言われたので、柏の東葛飾高校とのつながりや愛好会の活動のこと、全国の輪をつなぎたいこと、重吉の詩の素晴らしさを語らせていただきました。

これで集いは終わりましたが、それぞれにお茶菓子配られ、娘さんがいてねいな挨拶をしてくれました。そして藤雄さんが、来年は元気に茶の花忌を開きたいと思っていることも教えて下さいました。元気なら、いつ

もの茶の花忌を継続するつもりでいるということだと思います。今後のことも考え、市民文学館の館長さんには、公的な援助をお願いしてきましたが、藤雄さんの記念館に対する思いとの調整がうまくいけばいいなあと思いました。12時半過ぎのバスに乗って記念館をおいとまして駅に向かいました。

帰り、愛好会仲間の佐藤、池田、伊藤かつこ・由利子さんに、乗松さん、大町さんを加えて橋本駅で一緒に食事をとりながら、重吉の詩について楽しく語り合ってきました。例年とは違った茶の花忌となりましたが、参加できてよかったと思いました。

## (2) 茨城のシンポジウム報告

2013年11月9日、2006年から始まった茨城での八木重吉シンポジウムが今年も行われた。と言っても昨年中止したので、7回目ということになる。今年度で茨城キリスト教学園に勤務している藤山先生が退職になるので、それぞれの体調も考えると、これが最後になるかもしれないということであったが、重吉の詩の鑑賞会は、重吉の信仰の深い所まで考えることが出来て、実りあるシンポジウムとなった。

まず武田先生が、晩年病に倒れた重吉と、重吉を支えた登美子夫人の信仰を取り上げ、ひとすじの純粋な求道の道を進んで行った重吉に対し、やさしい人柄の中にも肝っ玉の据わった登美子夫人の信仰を取り上げた。重吉について書いた登美子夫人の著書『琴はずかに』は、武田先生の長年の祈りと懇願から生まれたものであったので、これを英訳して外国に知らせるのも武田先生の夢であったとのこと。翻訳は2000年『Flow Gently the Harp』として出版されている。



〈茨城キリスト教学園でのシンポジウム〉

私小林は、柏の詩碑に刻まれた詩「原っぱ」が、柏の当時の姿を残しながらも、重吉の自然観と信仰が重なり合った詩であることを指摘した。葛飾の緑多い自然は、その当時だれもが目にする平凡な自然であったが、散策の中でそこに美を見出す。そして人生の求道に生きている重吉の心は、見出した自然の美の感動を、自分の求道心と融合して表現する。それも一見誰もが知っている平易な言葉で表現する。平易な言葉だけど、推敲に推敲を重ねて出て来た言葉でもある。〈ずいぶん広いのはら〉を重吉は〈ずいぶん広い原っぱ〉と推敲で直しているが、日本語の言葉の響きからも、〈原っぱ〉の方が感動が伝わる。遠くまで続く〈いっぽんのみち〉を歩いていくと〈ひとりごとをいうのがうれしくなる〉と続ける重吉の言葉は、私には出てこないが、重吉に言われてみれば「そうだ、そのとおりだ」と思える表現なのである。この的確な表現が重吉の魅力なのである。重吉の心の表現であるとともに、私たちの心の琴線にも響く言葉なのである。

藤山先生は、イエスへの信仰の確信を示した詩と、同時にすぐやって来る迷いを示した詩を対照させながら、信仰者として生きる者の現実、神を信じながら神の与える試練をなぜと訴える葛藤であることを指摘した。そして神に問いかけることは、実は神が「私をたずね求めよ」と望んでいる事であり、与えられる苦悩を神に問いながら生きることこそ、神との親しい交わりであると語られた。この世ではすっきりした解決はない現実に対し、最後はそのまま委ねることが信仰者の姿でいいのではないかと、信仰の本質的なところまで踏み込んで考えるこ

とが出来た。

3人の感話の後、他の参加者を交えての感想と話し合いになり、参加者全員がクリスチャンであったので、信仰の求道という観点から話が進んだ。2時半から5時まで、重吉の詩を通して、生きることと信仰の本質を考えることが出来て、内的に充実したシンポジウムとなった。

☆今年の今後の計画案内

- ・ホームページ開設に伴う、重吉ファンとの情報交換とその報告（会報の発行とホームページ上で）
- ・重吉ゆかりの地の詩碑見学会や詩の鑑賞会
- ・茶の花忌参加（今年の計画はどのようになるのかまだわかりません。）
- ・愛好者から「**八木重吉との出会いとその詩の魅力**」原稿募集
- ・今までの活動の整理

☆詩碑になっている10の詩の最近の写真紹介

- ・柏の「原っぱ」（1ページに掲載）
- ・生家と小山田桜台の「素朴な琴」
- ・相原幼稚園の「ふるさとの川」
- ・川尻小学校の「飯」
- ・大戸小学校脇の「願ひ」
- ・茅ヶ崎の「蟲」
- ・御影の「夕焼」
- ・西宮の「幼い日」
- ・西尾の「花」と「ひびいてゆこう」